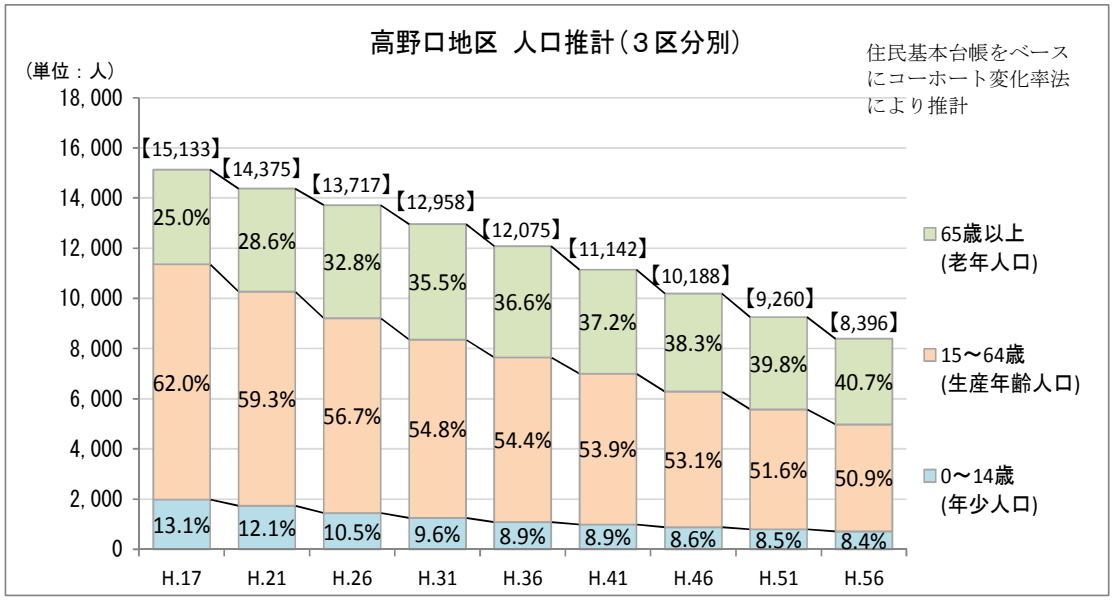
◎高野口地区公民館エリアの人口推計

■概要、データ

人口	13,298人（H29.3.31）
高齢化率	35.1％（H29.3.31）　※市全体30.1％
世帯数	5,879（H29.3.31）
交通条件・地理的条件	鉄道：JR和歌山線高野口駅 市の西部に位置する地域。北部には金剛生駒紀泉国定公園の山並が広がり、南側には紀の川が流れる。かつては宿場町として栄え、歴史的建造物が見られるとともに、地域産業であるパイル織物工場が点在している。
観光資源・ 特産品・施設等	名古曽蛭子神社、裁ち寄り処、パイル織物資料館、前田邸、葛城館、ババタレ坂、高野口公園、住吉運動公園、せせらぎ公園、信太神社（クスの木）、嵯峨の滝、嵯峨谷の神踊り、紀望の里 公共施設：産業文化会館、高野口地区公民館、高野口中学校、高野口小学校、応其小学校、信太小学校、地場産業振興センター、高野口斎場・墓園、伊都中央高校

■年齢３区分別人口の推計



	H17	H21	H26	H31	H36	H41	H46	H51	H56
65 歳以上	3,777	4,109	4,506	4,605	4,425	4,140	3,902	3,688	3,415
15～64 歳	9,375	8,531	7,771	7,107	6,570	6,010	5,409	4,782	4,272
0～14 歳	1,981	1,735	1,440	1,246	1,080	992	877	790	709
合計	15,133	14,375	13,717	12,958	12,075	11,142	10,188	9,260	8,396

出典：橋本市公共施設等総合管理計画（基本方針編）

「高野口住民熟議」　まとめ

（1）産業の振興と雇用を創出し定住できるまち
●再織を中心に産業の新興と雇用を作り出していく ●農業はある程度の収入がなければやっていけない（機械の貸付がない、人がいない→手が出ない）。 ●伊都中央高等学校の取り組み ・介護職員初任者研修を実施（橋本市職員・商工会からも講師になっている） ・ボランティア、アルバイトを通して求人に結びつける（地元の企業の担い手となれる） ●農業と織物を活性化、融合できるのでは ●ブランド化、生産と販売の一連化、稼ぐことが活性化になる ●高野口という名前の売り出しと裁ち寄り処とつなげて活性化していけるとよいのでは ●京奈和の道もできて便利になってきている中、何かするとしても駐車場がないのでどうにかできないか ●まちの活性化のためには若い人が集まる手立てがいる。祭り、夜店など ●高野口検定の復活。事務局の設立が出来れば良いと思う ●耕作放棄地が多いので農業をしたい若い世代につなげていけるようにできないか ●農業法人ができないか。そうすると若い農業者が増えるのでは？ ●子育てはとてもしやすいまちなのでアピールしては？ ●高野口の織物のブランド化を進める→行政と企業でさらに進めることはできないか
（2）安全安心な暮らしを支えるまち
●自主防災を盛んに取り入れる ●見守り隊をもっと充実させる ●若者が高齢者の家に訪問するシステムを作る ●市民ニーズに合わせたことを試してみることが必要。解決することが必要。 ・高齢者が必要とするタクシーの工夫 ・直面したときにどうするかを考える ●新興地から青パトロールが定期的には巡回してくれているが、毎日でもお願いしたい →この人たちの協力で高齢者も助けてくれればいいが…（高齢者のニーズ） ●地域と先生と子どもとつながるコミュニティスクール ●登下校のあいさつ運動で声掛け。根気よく挨拶する。自分のための介護予防になっている ●見守り隊があるため安全なまち あいさつが交わされコミュニケーションがとれる（声掛け運動） ●防災マップがある。小学生が調べて地域の人に知らせることもしている。 ●地域でも家庭でも地域の情報共有をすることが大事 ●地域の人達との会話が大事 ●少子高齢化による空き家問題→交流スペースに出来ないか、空き家ごと引き取ってくれないか ●住民のつながりが薄くなっているので、つながれるような仕組みができないか
（3）子どもから高齢者まで共に育む
●子どもと高齢者とのつながり、出会いの場を増やす ●ボランティア養成→若者に体験をさせて、地域に貢献できる喜びを感じさせる →高齢者の知識や力を活かそう ●異年齢の活動の場を設け、信頼関係を築く（様々な世代の交流） →公民館活動を学校で実施 →地域のスポーツも学校で実施 ●地域に高校があることは大きな力→今以上にできることはあるだろう（公の場をもっと活用する） ●予算がないだけではなく、〇〇は責任もってやるということを言わないと住民はしんどくなる ●今昔プロジェクト（わが町高野口など）学校の地域学習に一般の人が参加できる機会があれば良い ●職場体験を通じて、地域の人とつながれる ●小学校と高齢者がつながれる企画ができないか ●こども食堂→高齢者や大人も利用できるようになれば、元気な高齢者がボランティアとして こども食堂をしてみては？

「高野口住民熟議」　A班

（1）産業の振興と雇用を創出し定住できるまち

・再織に力を入れているが、どうしたら販売に結びつけるか
・再織を中心に産業の新興と雇用を作り出していく
・外国産の安いものにおされているが、最織をアピールするために、
　インテリアショップ・アンテナショップにおいてもらう
　広くコマーシャルする
　若い人のアイデアを取り入れる
　ＳＮＳにアップする
　高級品として売り出そう　という意見があった。

（2）安全安心な暮らしを支えるまち

・自主防災を盛んに取り入れる
・見守り隊をもっと充実させる
・若者が高齢者の家に訪問するシステムを作る

問題点
・分譲住宅地が多いので地域のつながりが薄い。隣どうしの顔が見えない。
　そのため、魅力のある公民館活動が大切

（3）子どもから高齢者まで共に育む

・子どもと高齢者とのつながり、出会いの場を増やすために
　祭り、イベント、踊り、スポーツなどを通して触れ合うのが大切。

その際の注意点
・イベントではそれぞれ役割を与える
・与えることで若者と大人が力を合わせてイベントを成功させることで、
　お互いに認め合いいいまちになるのでは。

「高野口住民熟議」　B班

（1）産業の振興と雇用を創出し定住できるまち

●大型量販店はあるが、個人のお店はなくなっていく。
●有力な大きな企業が無い（働く場所が無い→定住できない）。
●農業はある程度の収入がなければやっていけない（機械の貸付がない、人がいない→手が出ない）。
・高齢化→休耕田・畑を生き返らせるために人を迎える→この企画をしてくれるのが行政かな？
・収益のあがる商品は何かを考える（ブランド品として取り上げられる物産を作る）
・橋本を売り出す手法が弱い　・自然を活かせ、話し合え（良い所、悪い所）
・住民税と水道料金等が高いとかが外に知られている→定住に結びつくか？下げる方法はないのか？
・儲けることばかり考えず、長い目で見ることも必要
●伊都中央高等学校の取り組み
・介護職員初任者研修を実施（橋本市職員・商工会からも講師になっている）
・ボランティア、アルバイトを通して求人に結びつける（地元の企業の担い手となれる）
●きのこ公園の活用　●橋本市も何か起業する（第3セクター）
●最先端の企業誘致　●お互いやっていることが目に見えていない

（2）安全安心な暮らしを支えるまち

●移住者も地域に溶け込めるか
●市民ニーズに合わせたことを試してみることが必要。解決することが必要。
・高齢者が必要とするタクシーの工夫
・直面したときにどうするかを考える
●新興地から青パトロールが定期的には巡回してくれているが、毎日でもお願いしたい
→この人たちの協力で高齢者も助けてくれればいいが…（高齢者のニーズ）
●高齢者はよく働いてくれる→若者たちに引き継げ
●ボランティアで喜びを得る

（3）子どもから高齢者まで共に育む

●ボランティア養成→若者に体験をさせて、地域に貢献できる喜びを感じさせる
→高齢者の知識や力を活かそう
●異年齢の活動の場を設け、信頼関係を築く（様々な世代の交流）
→公民館活動を学校で実施
→地域のスポーツも学校で実施
●地域に高校があることは大きな力→今以上にできることはあるだろう（公の場をもっと活用する）

「高野口住民熟議」　C班

（1）産業の振興と雇用を創出し定住できるまち

- シール織物のまちが衰退してきた
- 信太は農業の伝い手が少なくなってきた
- 農業と織物を活性化、融合できるのでは
- 駅前、希望の里への出荷など総合的なもの
- 民間の力は素早い
- 定住するためには仕事が必要
  市内の半数が市外に就労している
  国道沿いの店が活性化している。商売の繁盛するまち
  「はたごんぼあられ」が売れている。出荷量に限界がある。
  裁ち寄り処の売り上げがある。メイドインはしもとの付加価値
- 織屋の就労形態から生活スタイルから現金こづかい
- 織物組合（西川の布団、新幹線シート、クラウンの座席）がありながら、ネームを
  売り切れていなかった要因もあったのでは
  ブランド化、生産と販売の一連化、稼ぐことが活性化になる
- 高野口という名前の売り出しと裁ち寄り処とつなげて活性化していけるとよいのでは
- 駅前の通りがすばらしい。残っている通りは良いのでは。駅前通りを拡げることもできるのでは
- コンビニの方が先乗りしている。利便性はあるが産業や雇用の創出に繋がるか

（2）安全安心な暮らしを支えるまち

- 分け合う、一緒に作る　便利だけでは安心が得られないのでは。
  顔見知り、不便なまちの方が助け合いできるのでは
- 地域と先生と子どもとつながるコミュニティスクール
- 登下校のあいさつ運動で声掛け。根気よく挨拶する。自分のための介護予防になっている
  自治会がしっかりしている地区は推薦してくれるので基盤がしっかりする
- 寺、神社、祭りなどの集まりを通して、ふれあいをしている
- 農業の伝い手がいなくなってきている
- 岩出市出身者からすると、高野口はコミュニティが充実していると思う。
  これを維持していくための方法

（3）子どもから高齢者まで共に育む

- 高小コミュニティの会長（赤井氏）
  子どもと高齢者の集い
  地域と連携
  歴史ウォーク　子どもたち楽しむ、毎年実施と発表、ホタル鑑賞
  たこづくり　工作、遊びのイベント、清掃活動
- 予算がないだけではなく、〇〇は責任もってやるということを言わないと住民はしんどくなる

「高野口住民熟議」　D班

（1）産業の振興と雇用を創出し定住できるまち
・元気なまちをつくる　・織物のまちだった。新しいもの！　・働く場所がない ・京奈和の道もできて便利になってきている中、何かするとしても駐車場がないのでどうにかできないか ・まちの活性化のためには若い人が集まる手立てがいる。祭り、夜店など ・高野口検定の復活。事務局の設立が出来れば良いと思う ・空き家を利用したまちづくり。空き家バンク ・商店街が活性化。若い人で作った「あきんどの会」「ＣＳ会」など ・若い人が集まってこない。空き家を利用して活性化。ホームページ（リンク県のホームページ）
（2）安全安心な暮らしを支えるまち
・見守り隊があるため安全なまち あいさつが交わされコミュニケーションがとれる（声掛け運動） ・2時半の放送があるので気をつけることができる ・防災マップがある。小学生が調べて地域の人に知らせることもしている。 →今後地域の人が一緒に検証することができれば良い。 防災訓練の費を決めて、ハンカチをあげる 見守り隊の活動、安否確認 ・地域でも家庭でも地域の情報共有をすることが大事 ・地域の人達との会話が大事
（3）子どもから高齢者まで共に育む
・つながりあう（子どもと高齢者） ・今昔プロジェクト（わが町高野口など）学校の地域学習に一般の人が参加できる機会があれば良い ・職場体験を通じて、地域の人とつながれる ・小学校と高齢者がつながれる企画ができないか 去年中学生が高齢者のお宅を訪ねて話をするという提案があった それを踏まえて、子どもと高齢者が集まる機会を増やすことが大事

「高野口住民熟議」　E班

（1）産業の振興と雇用を創出し定住できるまち
・自営業をしている人が少なくなっている ・耕作放棄地が多いので農業をしたい若い世代につなげていけるようにできないか ・農業法人ができないか。そうすると若い農業者が増えるのでは？ ・野菜工場のようなものができれば雇用につながるのでは？ ・農業も6次産業まで考えてもいいかもしれない（製品作成、柿製品など） ・通勤しやすいまちであれば若い世代が多くなるのでは？ ・子育てはとてもしやすいまちなのでアピールしては？ ・高野口の織物のブランド化を進める→行政と企業でさらに進めることはできないか
（2）安全安心な暮らしを支えるまち
・少子高齢化による空き家問題→交流スペースに出来ないか、空き家ごと引き取ってくれないか ・ひとり暮らしの高齢者が死亡しているということがあった 住民で見守れるような仕組みがあればいのでは ・住民のつながりが薄くなっているので、つながれるような仕組みができないか
（3）子どもから高齢者まで共に育む
・こども食堂→高齢者や大人も利用できるようになれば、元気な高齢者がボランティアとして こども食堂をしてみては？ ・車に乗れなくなると移動できない高齢者が多い（バス？タクシー？）